

第4回ガソリン価格の適正化等に関する検討会議事録

日 時：令和8年2月2日（月）13:00～14:30

場 所：長野県庁 特別会議室

出席者：

（構成員）（一社）長野県商工会議所連合会 徳武専務理事、長野県商工会連合会 中村専務理事、
長野県中小企業団体中央会 井出専務理事、
長野県市長会 土屋経済部会長（上田市長）、
長野県町村会 日臺産業経済部会長（木島平村長）、
資源エネルギー庁燃料流通政策室長（代理）佐藤室長補佐、
関東経済産業局 半仁田資源・燃料課長、青木村 北村村長、売木村 清水村長、
栄村 宮川村長、全国石油商業組合連合会 川浪業務グループ長代表、
（株）価値総合研究所 鴨志田主席研究員
（県）阿部知事、米沢産業労働部長、直江県民文化部長、渡邊産業政策課長、
小池地域振興課長、西川くらし安全・消費生活課長

【逐語】

（米沢産業労働部長）

第4回「ガソリン価格の適正化等に関する検討会」を開催させていただきます。

本日の司会進行を務めます、産業労働部長の米沢一馬と申します。よろしくお願いいたします。

本日はご多忙のところ、本会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。ご参加いただいております委員、オブザーバーの皆様は、お手元に配付させていただきました出席者名簿に記載のとおりでございます。なお、王滝村の越原村長と信州大学の本多先生は、ご都合により欠席される旨のご連絡をいただいております。なお、本日の議事録につきましては、皆様のご確認をいただいた上で、議事録を作成させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、会議を始めるに先立ちまして、阿部知事からご挨拶を申し上げます。

（阿部知事）

委員・オブザーバーの皆様には大変お忙しい中、検討会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

現在、衆議院議員選挙の真っ最中という状況でありますけれども、いろいろ争点ありますが、物価高対策ということがいろいろな意味で注目されております。長野県でも、また各市町村においても、国の経済対策や予算を活用して、物価高対策あるいは県民の皆さんの暮らしを守る取り組みを進めてきているわけであります。

ガソリン価格については、かねてから長野県における大きな論点の一つでございます。皆様方といろいろ議論を深めていく中で、課題の整理等を行っていくことが出来たと思っております。まずは今回感謝を申し上げたいと思います。そういう中で、長野県においては、まず中山間地域におけるSSを維持していくこと、地域の皆様の暮らしを守れないかという問題意識で取り組んでまいりました。今日はその一定の方向性についてお話をさせていただき、方向感を高めていきたいと思っております。

また、ガソリンの価格については、公正取引委員会からの排除措置命令が長野県内において出されるというような、非常に遺憾な事態が生じてしまったわけであります。一方、暫定税率の廃止に向け、国からの取組が樹立される中で、ガソリン価格は下がってはきています。ただ、他の地域との比較で見た場合には、相対的に価格が高いという実情は依然として存在しているという状況の中で、ガソリン価格について、我々としてどう受け止めて、今後どう対応していく必要があるのか。この点についても、今日皆さんと共に議論していきたいと思っております。

我々県としては、公共交通の充実、あるいは自家用車に頼らなくても暮らせるような街づくり、こうした取り組みも片方で進めていかなければなりません。しかしながら、今の時点においては、各ご家庭どうしても自家用車なしにはなかなか暮らしを営むことができないという状況であります。また、様々な産業活動、経済活動を考えたときにも、ガソリン価格のあり方というのは大きな意味を持っております。

県民の皆様の暮らしに寄り添う、そして暮らしやすい長野県をどうつくっていくのか、また長野県の産業経済をさらに発展させていくためには、どういうことを考えていく必要があるか。こうした観点で、皆様方と今日検討会においても、一層議論を深めて、方向を見出していきたいと思っております。どうか皆様方には、忌憚のないご意見をいただければと思っておりますし、引き続き、この長野県におけるガソリン価格の適正化、また中山間地域のSSの維持・存続にそれぞれのお立場から一層のご協力、ご準備いただきますことを心からお願い申し上げて、私からの冒頭の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(米沢産業労働部長)

ありがとうございました。それでは、議事に先立ちまして、お配りした資料の確認をさせていただきます。

本日の資料は、次第と出席者名簿のほかに、議題を3つご用意させていただいております。それぞれ、資料1「中山間地域等のSSへの県の支援について」、資料2「県内のガソリン価格の実態について」、資料3「ガソリン価格表示等実態調査の結果について」、以上3つの資料と、さらには商工会連合会様から、事前にご提出されました「中山間地SS支援プロジェクトチームの進捗について」という資料をお配りさせていただいております。

それでは、議事に移らせていただきます。9月24日に開催いたしました第3回検討会において、中山間地域等のSSへの県の支援策の案についてお示しをし、ご議論いただいたところです。その後、この会議で出ました意見を踏まえまして、県の支援策の見直しを検討してまいりました。その結果についてご報告させていただきます。

それでは資料1の中山間地域等SSへの県の支援について、産業政策課から説明をお願いします。

〔議事（1）中山間地域等のSS（サービスステーション）への県の支援について〕

(渡邊産業政策課長)

中山間地域等のSSへの県の支援についてということで、資料1をお願いします。

2ページをご覧ください。第3回検討会で頂戴したご意見等を踏まえまして、支援策の見直しを行いました。

左側が頂戴した主なご意見、右側が県の検討結果・対応でございます。

1の「燃料供給に関する計画」につきましては、下線のとおり、計画策定の前提となる大枠のデータ提供につきまして、個々の市町村の皆様で行うのではなく、県でデータ提供を行ってほしい、というものでございました。これにつきまして、右側の対応欄のとおり、令和8年度当初予算におきまして、所要のデータ提供ができるよう、県として検討してまいりたいと考えております。

その下の2、「国補助金の上乗せ補助」について、3点御意見を頂戴いたしました。

(1)は、県の補助率につきまして、前回の検討会では、資料の左側の薄い緑の枠の3(1)に記載のとおり、①市町村の皆様自ら直接SSの維持・強化を実施する場合の補助率と、②事業者の皆様を市町村が支援する場合の補助率、この2つで補助率が異なっていたということで、これを同じにしてほしいとの御意見を頂戴いたしました。県といたしましては、中山間地域のSSの維持に取り組む市町村を支援するコンセプトのもと、ご意見のとおり、同じ補助率として制度を構築してまいりたいと考えております。

その下、(2)のご意見は、利子補給など様々な形の支援が予想される、というものでございました。

これにつきましては、市町村の皆様や事業者皆様の財政面・費用面の負担を最大限軽減することを主眼として、ご提案した国補助金活用の上乗せで原則対応することとしたいと思っております。

なお、SS事業者の自己負担分につきましては、県中小企業制度融資等により、支援してまいりたいと考えております。

続いて、(3)実際の整備には、土地の測量調査、あるいは地質の調査などで費用と手間がかかる、との御意見をいただきました。これにつきましては、国の補助金におきまして、そういった経費も対象としていただけるよう、昨年の11月にも要望を行っておりますが、県として引き続きそのようなかたちで対応してまいりたいと考えております。

3ページをお願いいたします。

以上の対応・見直しを踏まえまして、前回もお示した、中山間地域等のSSへの県の支援策の全体像を案としてとりまとめたものでございます。一番上の枠の中の「中山間地域のSSへの認識と支援コンセプト」、1の支援対象、2の支援期間につきましては、前回の検討会でお示したものと同様でございます。

3の支援内容につきまして、1つとして、県全体のSS・燃料供給の状況を調査いたしまして、各地域・市町村に提供して、というものは、先ほど申し上げた令和8年度当初予算の中で検討してまいりたいと考えております。

2番目、1の調査結果も活かしながら、各地域で取り組んでいただけるよう、燃料供給体制の将来像の策定、こちらを、その下の【支援策】に記載のとおり、国施策への県独自の上乗せ補助を行いまして、市町村の皆様負担を最大9割程度削減できるよう、サポートしてまいりたいと考えております。

また、※印のとおり、一部の国の補助金が活用できない、あるいは対象とならない市町村の皆さまにつきまして、国の補助金相当分を県独自に補助してまいりたいと考えております。

3番目、上の2で定めた計画に沿って実施されるSSの整備につきましては、下に記載の【支援策】によって支援してまいりたいと考えております。

また、こうした国補助金、県独自補助に加えまして、最下欄に記載のとおり、元気づくり支援金、あるいは県が設置する市町村サポートチームの助言等によりまして、来年度からの市町村の計画策定、SS事業者の施設整備・充実と、さらにSSのある地域の拠点づくり、こういったものをしっかりと支援してまいりたいと考えております。

以上が来年度から実施する県支援策の全体像(案)のご説明・ご報告でございました。よろしく申し上げます。

(米沢産業労働部長)

ただいま説明がありましたとおり、県としては「燃料供給に関する計画」を策定して、地域に欠かせないSSの維持・強化に取り組む市町村への支援を通じて、中山間地域等のSSの維持・強化を支援してまいりたいと

考えております。

(青木村 北村村長)

上乘せについては青木村からいろいろお願いしましたが、財政状況が非常に厳しい中でご配慮いただきまして、SS 過疎地の自治体では、地域の暮らしを守るということができてよかったなと思っております。

若干、時間をいただいて、私どもの青木村の皆さんにお話ししておりました 80 歳を超える高齢者の SS が継承されましたので、報告をさせていただきます。

保証金を 2,000 万円積まなければいけないような、思いのほか厳しいことがありまして、勉強させていただきました。村では灯油配送車両等の購入補助に補正予算で 540 万円を計上して応援をすることになりました。なお、80 歳を超える夫婦に感謝状を贈呈したところでございます。ご支援、ご検討ありがとうございました。以上です。

(米沢産業労働部長)

ありがとうございました。継承したということは何よりでございます。

商工会連合会の中村専務から、商工会連合会の取組の進捗状況についてご共有をいただくお話をいただいております。中村専務、お願いいたします。

(商工会連合会 中村専務理事)

お時間をいただきまして、私どもの取り組みを少しご紹介したいと思います。

こちらの方の検討会と並行する形で、私どもの方で昨年の 3 月から、まず 4 つの SS、先行支援ということで、具体的に経営状況などを見させていただきながら、どうい支援策があるかというようなことを進めてまいりました。チームを作って行っているのですが、全県で現在 33 社、26 の商工会にあたりますけれども、調べ始めて支援に入っているところでもあります。配布資料に書いてありますけれども、商工会から見て地域に重要と思われる SS をピックアップさせていただいて、支援対象として巡回をして相談を開始しているところでもあります。

複数回、相談に伺って信用を得た後に、いろいろな支援規模とか事業の問題、それから設備の問題、経営状況の問題等々も含めて確認させていただきながら、今後の方向を決めていくということでもあります。

3 番の進め方、県のコンセプトの地域にとっては欠くことのできないインフラだということを共有させていただいた上で、事業者に寄り添うというような形で、事業の計画を作りながら、新たな需要の開拓も含め、支援を決めているというような形です。

裏面でございますけど、具体的には相談に乗りながら経営状況を確認させていただき、支援方法を検討しているのですが、その中では補助金が大事になってきますので、その活用ということで、今後このご提示いただきました燃料供給計画について、市町村さんも関わりながら、自治体 SS 承継補助金、これを活用したいなと思っておりますし、また市町村サポートチーム、県の方で取りまとめということになりますので、参画するとか、そういう形で、具体的には地下タンクの入替え工事なんかの補助金も活用させていただきたい。経済産業省などのいろいろな補助金に、対応できるものは対応していくというコンセプトで行っています。

(3) の支援内容等ですが、もちろん全部・全箇所を訪問して、細かいヒアリングシートを作っているのですが、営業状況とか集客の状況、設備、それから財務会計等も詳しく調べさせていただきながら、方向を決めています。先ほど青木村の村長さんからご紹介いただきましたところにも関わっておりまして、今後も続けられるように支援を続けていくということです。

以上のように、(4)のようなフローで流れていくのですが、右下にあるように、一旦2月末に私どもで全体を取りまとめて、33のSSにつきましては、来年度以降どういう支援を具体的にいかというのを、決めながら進めていきたいと思えます。まずはこれ手始めで、できるだけ全県に拡大していきたいと思えます。以上です。

(米沢産業労働部長)

ありがとうございました。中山間地のSSの支援につきましては、県と協力関係を構築していただいて、これからもよろしく願ひいたします。大変参考になるお話ありがとうございました。

(価値総合研究所 鴨志田主席研究員)

オブザーバーという立場でございますが、私もこれまで各県のSS過疎計画の策定に関わってきたという事で、一言申し上げさせていただきますと思えます。

まず、長野県のこの補助金の上乗せ支援は、おそらく私が知る限りでは全国初ではないかなと思えます。こういう取組みは市町村の取組みを促すものとして、非常に期待されるものかと思っております。さらに先ほどの商工会連合会様の支援、これもなかなかありそうでないものです。県と商工会のダブルで、有意義な支援体制ができていかなと感じたところでございます。

一方で、一言申し上げておきたいのは、これから先おそらく各自治体での計画策定が進んでくるとは思っておりますが、将来的に燃料の需要というのはやはり下がってくる。そういう意味では、様々な経営支援や計画を策定しても、これからSSの経営はどんどん厳しくなるというのが事実としてあると思えます。

そういう意味では、せっかく自治体の方で計画を策定するにあたっては、他の地域課題と合わせて検討をすること。具体的に申し上げますと、特に観光であるとか、防災であるとか、福祉、産業、物販、エネルギーといったものといかに絡めながら、機能の複合化を図っていくかということがポイントだと思えます。せっかくいろいろな支援で短期的には経営が維持されても、やはり動かなくなった、となると勿体ないことですので、ぜひ自治体が計画を策定する際には、SSの維持はもちろん重要ではあるんですが、それと合わせて、様々な課題も合わせて検討できるような、そういうご支援をいただけるとよいかなと思っております。これが1点目です。

2点目は今の話と少し変わるのですが、将来的に需要が減っている中で、基本的には市町村単位で検討するのですが、やはり広域的な視点で、複数の自治体と連携して維持していくという考え方も必要ではないかと思えます。ある種、そこに県が主導的に関わっている意味もあるのかなと思っております。全国的にはまだまだ広域でSS過疎を対策する例はほとんどないのですけれども、いわば長野モデルのような形で、新しいSS維持の枠組みというものをご検討いただけるとよいかなと思っております。ありがとうございます。

(米沢産業労働部長)

ありがとうございます。事務局から何かありますか。

(渡邊産業政策課長)

兼ねてからご指摘いただいている点でございますが、今回は単にSS維持に留まらず、先ほどの説明の中で地域の拠点という話もいたしましたけれども、県内でヒアリングすると、確かに防災もそうですし、地域の拠り所となるような地域づくりにも生かしたいという声もお聞きしますので、そういった点も念頭において取組みをすすめてまいりたいと思えます。

令和8年度予算でも検討しておりますけれど、全県において調査を行うことが県で大事なことだと思っております。これを活かしながら、地域の実情に寄り添って、個々の市町村だけでなく、広域的に対応できるよう取り組んで参りたいと思います。ありがとうございました。

(関東経済産業局 半仁田課長)

資料の中で、今もお話がありました調査事業というところにつきまして、私どもとしましては、参考になるような情報などありましたら可能なものは提供させていただきたいと思っております。それに関しまして、国の方で地方創生を情報面から支援するためのシステムである「地域経済分析システム」、通称 RESAS (リーサス) と呼んでおりますけれども、こういったものをホームページで公開しております。

私ども経済産業局の方でも、RESAS の担当者を地方自治体様のご要望に応じて派遣して、出前講座を実施させていただくような取組も行っておりますので、今後、事業の取組を検討しながら、参考にさせていただければと思います。よろしく願いいたします。

(米沢産業労働部長)

ぜひ、これからも連携いただきたく、よろしく願いいたします。我々の方からも要望をお伝えしていきたいと思えます。

[議事(2) 県内のガソリン価格の実態について]

(米沢産業労働部長)

次の議題に移らせていただきます。議題(2) 県内のガソリン価格の実態について、県内のガソリン価格の実態調査の中間報告をご説明させていただきます。産業政策課から説明をお願いします。

(渡邊産業政策課長)

それでは、資料2をお願いします。

県内のガソリン価格の実態についての中間まとめということで、報告させていただきます。

この調査は、なぜ長野県のガソリン価格が高いのか、その要因にはどのようなものがあるのかという点につきまして、これまでの間、入手可能な情報から調べてきたものでございます。1ページ目の下の方にございますが、実態把握の方法につきましては、記載のとおりでございます。

この調査では、公開されているデータを県で分析するというもの、それから、抽出させていただいた一部のSS事業者の財務状況を分析させていただきました。これは委託によって実施しております。また、比較対象ということで、本県と比較的類似する点が多いことから、群馬県を設定させていただきました。理由は記載のとおりです。

2ページをお願いいたします。

まずは「SS数の推移、1SS当たりの人口・販売量」でございます。

(1) SS数でございますが、平成元年と比べまして、本県は46%と大きく減少しています。しかしながら、群馬県と比べても減少率は低く、比較的多くのSSが残っているという状況です。

また（２）従業員数４人以下のＳＳ、小規模なＳＳではありますが、こちらは本県は全体の４０．７％ということで、群馬県あるいは全国平均と比べて値は高いということで、やはり本県は比較的小規模なＳＳが多く残っている状況でございます。

こうしたこともありまして、左下の（３）本県の１ＳＳ当たり人口は少なく、また（４）１ＳＳ当たりの販売量も少なくなってきた、という状況が確認できました。

３ページをお願いいたします。ガソリンの卸価格の状況でございます。

１０年前の２０１６年からグラフにしたものでございますけれども、本県の卸価格は、全国平均と比べまして、０．４～２．２円の幅で高くなっておりまして、直近２０２５年１１月でも、全国と比べまして１．５円高い状況となっております。

４ページをお願いいたします。こちらはガソリンの販売価格の状況でございます。

上の四角の枠に記載のとおり、本県の販売価格の全国平均との差は、卸価格よりも幅が大きく、１．５円～９．６円高い状況でございました。なお、昨年に公正取引委員会が「販売価格の調整を行っていた」とした期間では、全国平均よりも６．６円～９．２円高くなっていた状況でございます。

その下の方に記載しているのは参考でございます。ロットは少ないですが、ＳＳ事業者様に聞き取りをした販売価格の決め方を記載しました。

左下の棒グラフのとおり、県内のＳＳ事業者の方は、オレンジ色の「近隣同業者の価格と同程度に設定」とするという方が多い状況となっております。他方、群馬県をご覧くださいと、青色のところ、「１リットル当たりのマージンを設定して仕入れ原価に上乘せ」が多い状況となっております。

５ページをお願いいたします。「ＳＳへのガソリンの流通経路」というものを探ってみました。ガソリン・石油製品の流れは中段イメージ図をご覧くださいいただけます。

関係者・事業者の皆様への直接の聞き取りの中で、本県では、沿岸部の製油所から県内の油槽所に運ばれたガソリンの多くは、元売りの系列の特約店を通じまして、販売店に卸されるパターンが多いとお声をいただいております。また、本県の特徴と申しますか、中山間地が大変多くございます。イメージ図の右側の枠で囲ってあるとおり、中山間地のＳＳへの配送に当たりましては、通常とは別のルート・方法があるとお声をいただいております。

具体的には、大型のタンクローリーでは狭い道を運べないということもありまして、特約店様の方で寒冷地仕様の小型のタンクローリーを手配して運ばざるを得ない状況がある。その分コストが増えているのではとの声が寄せられておるところです。

この流通に関する部分につきましては、大変複雑ということを事業者の方からも伺っております。今後、直接、関係者・事業者から実態を伺っていく必要があると考えております。

６ページをお願いいたします。ＳＳ事業者の財務状況と取組事例を記載させていただきましてでございます。

中段の表は、県内でＳＳを１か所だけ運営している事業者の方の財務状況をいくつか分析したものでございます。表の中ほど、「主業がガソリンスタンド」である事業者の方は売上高が少額でありまして、給料や諸経費などの販売管理費を差し引いた平均の営業利益額は４００万円と低くなっている状況でございます。

他方、その下、主業を「ガソリンスタンド以外」とする事業者の皆様は売上高も多いわけでございますが、平均の営業利益額も８，３００万円と高くなっています。

今回、いくつかの事業者様の経営状況や取組を拝見していく中で、ＳＳの事業者様は実に様々な取組をされており、経費を下げ、あるいは売上・利益を上げようとしていることが確認できました。

中段下に取り組事例としていくつか記載させていただきました。

例えば、事業者 A の方は、仕入れ先を変更してプライベート店舗を増やすもの。事業者 B の方は、近隣にプライスリーダー、強力な低価格の S S が出現しましたが、ガソリン以外のタイヤ販売を強化することで、別の経営の柱を構築したというものです。また、事業者 C の方は記載のとおり、異業種展開に取り組みました事例です。

今回は県内のガソリン価格の実態・実状、各 S S の経営の状況や取組の工夫などを可能な範囲で、県の方で把握に努めたところがございます。しかし、なぜ長野県のガソリンが高いのかということに、さらに踏み込んで把握・分析するためには、やはり個々の事業者から経営状況や現場の声を伺う必要があると考えております。今回は中間報告ということですので、今一步、事業者の皆様へのアプローチを強めまして、本県のガソリン価格の実態把握に努めてまいりたいと考えております。そうした観点から、今後はこうしたアプローチをすべきですとか、こういったデータや、こういったご意見・お声があるなど、今後の実態把握に向けたご助言をいただければ大変幸いに存じます。

(米沢産業労働部長)

ありがとうございました。我々が調査した内容をこの時点の中間報告ということでお示しをさせていただきました。まず、この調査内容についてご質問等ございましたらお聞きしたいと思います。いかがでしょうか。調査内容について特徴的な部分も何点かございますが、こういうことに由来するのではないかといったご提言や、あるいは調査について、もう少しこういうところも調査した方がよいのではないかというような点も含めて、ご意見等ございましたらよろしく願います。

(町村会 日基産業経済部会長)

資料を見させていただいて参考になると思うのですが、例えばこの現行販売量の一つの中で、1 か所当たりの人口ということですが、むしろ車の走行距離ですね。そういうところの部分は相関を出してもらえればと思います。多分、都市部だと車を使っても短距離とかほぼ使わないと思うので。地方・田舎の方に来ると、通勤・通学ですとか、通勤以外でも距離が長くなりますよね。走行距離とどのような関係があるのか、詳しく調べられたらと思います。

(渡邊産業政策課長)

ありがとうございます。確かに私も調べている中で、やはり都市部と地方で車の利用に対する見込みが全然違うということは思っておりました。どこまで各エリアで調べられるか、私も調べてみたいと思いますけれども、非常に貴重なご意見だと思います。この調査の中で活かしていきたいと思っております。ありがとうございます。

(栄村 宮川村長)

ガソリンの価格がどうして違うのかということがよく分からないのです。暫定税率がなくなってきていますので、価格は下がってきている状態は理解できるのですが、まだまだ下がりきっていないような感じがしています。かなり差があるんですよね。長野地域でもかなり安いところもあるし、飯山市辺りもかなり差が出ていて、140 円代というところもあれば、160 円台というところもあると思います。私もは県境にいますけれども、新潟県と約 10 円は違うという差が出てきているのですが、今日こうして説明いただいた中でも、この差がどうしてというのが、いまいよく分からないというところがある。

S Sと言うくらいですから、サービスステーションですから、価格だけではなくて車のトラブルだとか、いろいろな面でスタンドにお世話になるというようなこともあるわけですから、地域のスタンドが重要で、必要ということは十分に分かっているのです。無くなるとは困る。しかしリッター10円以上違ってくると、そうはいてもなかなか難しいものがあります。

スタンドというのは情報交換の場でもあったり、いろいろな役割を果たしていくものですからね。やはり地域のスタンドに行きたいわけです。行きたくても、10円以上払えと言ってもなかなか厳しい面もある。そういったことで、どうして値段がこれだけ違うのかが明確に分かれれば、もっと楽になるのかなと思うのです。気持ちとしては、違ってよいのだけれど、できれば長野県内のどこに行っても5円ぐらいの差あたりで動ければよいなと、私はそんな風に思います。今の段階ではかなり差がある。その理屈がもう少し分かるとよいのかなと思います。

(町村会 日墓産業経済部会長)

木島平村は村内にS Sが1か所ありますが、飯山市と隣接しています。

昨年来、県の皆様で取り組みいただいた効果が出ているのか、競争原理が働いているということの感謝をしたいと思います。

価格差があるというのは、飯山市から中野市、長野市へ向かう交通量が多い道路沿いに、狭い範囲に従来2か所スタンドがあったのですが、もう1か所スタンドができました。そうするとその部分だけかなり競争が激しい。長野市近辺よりもかなり安い。スタンドはその周辺にもポツポツありますが、そういうスタンドの価格は下がっていない。

逆に競争しすぎて疲弊して行き詰っても困るし、周辺との価格差が広がりすぎて、周辺のスタンドの利用が減って経営が疲弊しても困る。価格競争をしながら、適切な価格を維持しながら経営していくのは大事な話なので、そういう心配もあるかなと思いました。

(渡邊産業政策課長)

栄村長から頂きましたご意見、確かに委員の皆さんもいろいろと疑問はあると思います。

調査の中で卸価格は開いておりませんが、販売価格はかなり開いている。これから経営の部分に入っていくと思いますが、事業者の方にしっかりと聞いていって、分析・説明できるようにしていければと思っています。

輸送に掛かる経費、先ほど中山間地の話をしましたけれども、こういったところに、もしかするとコスト増の要因があるのではないかと。あるいは経営規模もありますけれども、そういった中でも、経営上課題があるのではないかと。これは、事業者の方は各地で経営が違いますので、その辺りをしっかり聞いていかないと、なかなか全県でこうですというのは少し乱暴かなと思いますので、丁寧に意見を聞いていきたいと思っています。

確かに、あまりに競争が激しくなりすぎて疲弊することや、周辺との価格の差が生じることは、先を考えるとなかなか難しい問題だと思います。県の方で包括的なデータ分析はしていきますが、各地域で話をする中で、うまく需給、供給はどれぐらいなのか、コストの面、市町村サポートチームを含めて見ていければと思います。ありがとうございます。

(米沢産業労働部長)

中間報告とさせていただいたのは、そのような要因も分析をしていく必要があるかなどの思いによるものです。

どういったことをさらに深掘りしていかないと、この差の説明がつかないか、あるいは特定の価格決定プロセスがどのようなものか、もうちょっと私どもの方で調査していきたいということもありまして、中間報告とさせていただきます。

た。今までのご意見も含めて、こういったものをもう少し、あるいはここを考えていくとこういう風になる、というようなご提言・ご意見をいただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

(栄村 宮川村長)

少し戻ってしまうのですが、資料の1について、非常に自治体としてはありがたく、元気が出てくるようなお話で、大変嬉しく思いました。先ほど申したのですが、価格だけでなく、その地域が5年、10年、100年と維持できるためのものとして、スタンドの機能だけでなく、いろいろなことを兼ね合わせていけるような計画を、ぜひ作っていきたくと思っています。とにかく、前に進む力を頂いたと感じております。

そして先ほど申し上げました、地域のコミュニティみたいなところを考えると価格だけではないのですけれども、その辺のバランスがどこまで許されるかみたいなところもあるのかと思っています。価格が安いに越したことはないのだけれども、機能をもう少し柔軟に考えていくのも大事だと思っています。

(阿部知事)

資料の5ページに流通経路があり、特に県内中間地の場合、特約店が運搬とありますが、この部分はさらに輸送コストが掛かっているということでしょうか。

(米沢産業労働部長)

実はその部分は私もではまだ明確に解明できませんでしたので、もう少し追わなければいけないと思っています。価格が上昇する要因になっているのではないかと推測しておりまして、価値総研の鴨志田さんや、全石連さんにご意見を伺いたいと思っていた部分でありまして、もしよければ、何かコスト増になっている部分があるかどうかという情報があれば教えていただければと思います。

(価値総合研究所 鴨志田主席研究員)

ここがコスト増になっているかどうかは把握できないところがあるのですが、一つあるのは、おそらく前提になっている国の価格調査が全体ではなくサンプル調査だと思います。どこのSSを対象にしているか公表されていないので、どうしようもないところはあるかと思いますが、そこが明らかでないと、県平均といった場合に、どこのSS、もしかしたら全て長野市内かもしれないですし、もしかしたら全て中山間地のSSかもしれないですし、実はそこが明らかでないと、なかなか価格をどうこうと言えない部分があるかなと思っています。

本当は、その地域毎であるとか、公表されている価格調査とは別に、価格の分布であるとか実態を把握した方がよいかと思うところもございます。なかなか大変なところがあるかもしれないですが、公表されている価格調査のデータだけだと、少し言いきれないところがいずれにしても出てくるのではないかと考えています。

(中小企業団体中央会 井出専務)

感覚として分からないので教えていただきたいのですが、SSの販売事業者さんの努力ではどうしようもない部分というのはどこまでなのですか。ここから先は経営の部分で、いくらまではどうしようもないという境目というのはどこにあるのか教えていただければと思います。

(渡邊産業政策課長)

そういう部分も含めて、実際に事業者様に、既にいくつかは聞いていますけれども、聞いていかなければいけない

ところですが、ただ、ガソリン価格については、政府の商品を買って売るというものになりますので、返ってくる部分について、努力で出来る部分は限られてくるのかなと推測します。

2つ目の要因となる部分で付加価値を付ける、タイヤなど他のいろいろなサービスを始めて、ガソリンだけでなくお客様サービスを更に向上させることも経営の部分になると思うのですが、入ってくる部分は恐らく事業者様の努力ではなかなか難しい部分もあるのかなと推測しております。

(米沢産業労働部長)

井出専務のご質問は、ここまではもう価格が決まっているから、販売事業者単独ではどうしようもないところがあって、そこから先の努力の部分がどれくらいか、余裕があるのかなのかという議論をしたらいかがかというご意見かと思うのですが、いろいろとお聞きしてみると、仕入れ値の部分もいろいろな関係性があって、我々ではなかなかストレートに分からないところがあります。原価を引いた差が本来伸縮できる部分になるはずなのですが、そこが見えない。資料の6ページに平均営業利益という概念がありまして、数字をお示して、先ほど説明をさせていただいたとおり、ガソリンスタンド単体での営業をしている、主業ガソリンスタンドの事業者の方は400万円しかない一方で、ガソリンスタンド以内を主業としている方については8,300万円あり、全体平均が3,900万円という数字が出ていますが、こういう状況が生み出されてくる背景が実は分かっていないです。この差がどうしてそうなるのかという分析があまり進んでいませんので、本日、この会場の中でお知恵をいただける部分があればと思い、この資料を出させていただいたのですが、ご意見をいただける方がいらっしゃれば、教えていただければと思います。

(全国石油商業組合連合会 川浪グループ長代理)

個々の会社の財務状況について、全部を把握しているわけではございませんので、固定費がどれくらいで、それを除いた利益の部分がどれくらいでというのは、私どもの方では何とも申し上げることができません。

資料の6ページを拝見いたしまして、専業の方の営業利益が400万で、ガソリンスタンド以外にされている兼業の方が8,300万と出ているということでございますけれども、これは私どもずっと言い続けております、ガソリンスタンドの粗利益率の低さがそのまま如実に現れています。

専業の方におかれましては、燃料油がほぼほぼ全てというところだと思いますので、そうなってくると、販売ボリュームがどのくらいか、どのくらいの規模でやられているのかが分からないので何とも言えませんが、ただ、この数字を見ても分かる通り、ガソリンスタンドというのは営業利益が非常に少ない業態であると。価格は、商品に差がつけられないということもございまして、価格の影響、周りの値付けの影響をもろに受けってしまう業態だということはお理解いただけるのではないかなと思います。

(米沢産業労働部長)

ありがとうございます。資料5ページのS Sへのガソリンの輸出経路の中の最後、系列販売店Bに、特に県内中山間地の場合、特約店が運搬する別のタンクローリーを用意して輸送しているような事例が県内には見受けられることが、今回の調査で出てきたのですが、この実態、あるいはそれらの卸値+αの高コスト構造に結びついているとかといったところで、もしご意見があれば、お聞かせ願えればと思いますが、いかがでしょうか。

(全国石油商業組合連合会 川浪グループ長代理)

長野県の場合は、先ほど資料の中にあっただと思いますけれども、臨海部の製油所から内地の輸送所に運ばれ

ます。その内地の輸送所からさらにローリーで運ぶという形になりますし、大きなローリーが入れないところは、ある程度小さめのローリーで運搬しなければならないというのは考えられることだと思います。そうなってきますと、基本的にはその分ローリーの手配をしなければならないので、その分のコストが掛かってくるというのは十分に考えられることではないかと思えます。

(米沢産業労働部長)

今回いただいたご意見や、まだまだ私どもの方でもう少し調査を進めてまいりたい部分がございますので、そういったことを組み合わせて、次回までに更に調査を進めて、もう一度皆さまのご意見を伺いたいと考えております。

[議事(3) ガソリン価格表示等実態調査の結果について]

(米沢産業労働部長)

それでは議事の3に移らせていただきます。ガソリン価格表示等実態調査の結果、中間報告についてです。くらし安全・消費生活課から説明をお願いします。

(西川くらし安全・消費生活課長)

資料3ページをご覧ください。昨年実施しました表示価格に関する2つの調査について、現在結果を取りまとめているところでございますけれども、一部まとまったところがございまして、中間報告という形で、説明させていただきます。

1の調査の概要につきまして、2つの調査について具体的に申し上げますと、1つがSSの実際の価格表示の方法、看板があるのかないのかから始まり、あるならどのような内容が書かれているのかといった調査を行いました。併せまして、ガソリンスタンドを使っている県民の皆様に対しまして、ガソリンスタンドを選ぶ基準ですとか、重要な要素といったものを、アンケートの形で調査させていただきました。

本日はその中間発表ということで、表示の部分の項目につきまして、説明させていただきます。

「結果(中間発表)」のページをご覧ください。

まず調査につきまして、県内のSSについては、調査期間中に営業が確認できました737か所、基本的に営業している全てのガソリンスタンドを対象としています。併せまして、近隣県で表示価格が低い埼玉県と愛知県それぞれのそれぞれ50か所を対象に調査いたしました。

まず一番初めの、ガソリン価格の看板があるのか、ないのかということでございますけれども、表示看板がないところが、長野県につきましては18.9%、埼玉県・愛知県につきましては6.0%・14.0%となっております。

ただ、多くの特徴といたしましては、看板はあるけれども、そのうちの一部は価格が表示されていなかったり、場合によっては、全く価格が表示されていない、1店で1つの看板に表示されていないということもあれば、複数あって全てに価格が表示されていない、というガソリンスタンドも1.6%あったということでございます。

そういったものも含めまして、消費者の方がガソリンスタンドに寄っても、価格が分からないガソリンスタンドが、長野県では20.5%ということで、埼玉県や愛知県の、いわゆるガソリン価格が低い近隣県と比較して率が大きかったという結果となっております。

おめぐりいただきまして、看板はあったなかで、具体的に何の価格が表示されているのかについて調査した結果でございます。ガソリンスタンド1つに、看板が1枚のところもあれば、2枚3枚のところもございまして、看板数に応じて表示されている割合でございます。

結果といたしましては、現金価格や会員価格、カード会員価格など、それぞれ記載のとおりでございますけれども、一番注目すべきは、本来であればこの価格が何か分かってはじめて、消費者の皆さんも判断できると思うのですが、価格種別の表示がない、要するに金額だけ書かれた看板が、長野県で41.8%ということで、2つの比較県と比べてとても高い結果になっております。

続きまして、アンケート結果に移らせていただきます。初めにガソリンスタンドを選ぶ基準を上位7項目記載させていただきましたが、「価格」「立地条件」「出入りのしやすさ」等々という中で、特に重視していることとなりますと、やはり「価格」が最も多いということです。その中で、例えばご近所や通勤途中にガソリンスタンドがあるといったことを重視している方が多いということが分かっております。

次のページに参ります。消費者の皆様にとっての価格表示の重要な要素の上位7項目が、文字の大きさ、レギュラーやハイオクといったことが書かれている、割引条件等の表示、会員表示がしっかりと書かれているといったことが上位に上がっております。最も重視されている点となりますと「文字の大きさ」が一番に上げられるのですが、実はその後の割引条件表示ですとか、会員価格の表示など、何を書かれているかを非常に重視している方も多いということで、この2つを足しますと、「文字の大きさ」よりも、看板に何が書かれているかを最も重視している県民の方が多いということが分かります。

③になりますけれども、S Sの価格表示のどんなことに不満がありますか、ということで、複数回答でお聞きしました。少し意外であったのは「不満なし」と答えた方が半数近くに上ったということでございます。

ただ、半数少しとなった不満を紐解いていきますと、やはり「価格表示がない」「割引条件等が分かりづらい」「現金価格のみ表示」といった、先ほど私が申し上げた調査結果で長野県の数字が悪かったところが如実に不満として出ているかな、という点があります。逆に「情報が多すぎ」という方も1割程度いる点も注目すべき点かと思っております。

最後になります、3の今後の対応というところでございます。我々としては、県内のガソリンスタンドにおきまして、消費者にわかりやすい価格表示が普及し、適正な価格競争が行われる市場環境が形成されていくことが望ましい状況であると思っております。まだ中間発表ではございますが、今回の調査結果から、価格表示の現状と消費者意識に大きな乖離があるということが分かって参りましたので、調査結果を詳細に分析させていただきまして、長野県内の価格表示の現状と県民の意識をしっかりと把握をしてみたいと思っております。詳細な分析を行った上で、その結果を、長野県のガソリンスタンドの価格表示に関するガイドラインにつままして、全国石油商業組合連合会様がガイドラインを作成されていることを承知しておりますが、長野県としてのガイドラインの作成について検討していきたいと考えているところでございます。

(直江県民文化部長)

私どもは消費者の合理的な消費行動に主眼をおいて仕事をしているセクションでございます。

今回、ガソリン価格の表示の実態がわかったという中で、消費者の皆様意識と合う部分、合わない部分というものが見えてきたなと感じております。そういう中で、長野県内で消費者の方が自分達でどういった消費行動を選ぶかをしっかり確保できる環境を整える必要があると思っております。

ただ、現在はインターネット社会でございますので、実際にアプリで毎週の価格が知らされるような状況もありますので、価格表示だけが全てのものではないと思いますけれども、ただ、価格表示がないことによって被る不利益もあると思いますので、もう少し詳しく分析させていただいて、今後のガイドライン作成等につなげてまいりたいと思っております。

ガイドラインも、行政がつくって事業者の方をお願いするかたちものではないだろうなと。事業者の方々と行政が、消費者の方の意見を代弁するかたちで企てていただいて、お互いに合意のもとで作るといふかたちが望ましいのではないかと考えておりますので、併せてご意見を頂戴できればと思います。

(町村会 日墓産業経済部会長)

これまで出てきた県内のガソリン価格というのは、いわゆる現金価格の価格ということでよいですかね。

(西川くらし安全・消費生活課長)

国もそうですし、県で調査しているものについては、現金価格というものをお示しています。

(栄村 宮川村長)

報道でよく言われるガソリン価格が今週は上がったとか、下がったとかありますよね。あれを見ると長野県は実態より高いような気がします。これは先ほど申し上げられたスタンドの現金価格の話ですよね。現実より高い気がすると思うんですけど、そんなことはないですか。長野県のガソリンのレギュラー価格、少し疑問に思っています。

(西川くらし安全・消費生活課長)

県の価格調査というものを、国の調査と同時に going しております。その結果を毎週比較していますが、比較方法として、前回の価格と今回の価格でどのくらい下がったのかということの中で、今まさに仰ったところの調査を行っているのですが、その結果を踏まえると、全国と比較してそれほど大きな差はありません。多い時もあれば小さい時もあるということの中で、1円以上高い・低い場合もさらにチェックをしていますが、1円以上低いという場合はそれなりにありますが、高いというのがここ一年以上で2回だけという状況になっております。

そのため、必ずしも全国平均の価格差と比べて、長野県の価格差・変動が大きいというわけではないということ把握しております。

(直江県民文化部長)

おそらく皆さん現金価格で買っていないんですね。会員価格ですとか、いろいろなアプリの関係があったり、そういう価格で購入されていらっしゃる中で、新聞等で報道されます価格はフリーで入って現金で払うという方の価格になります。その辺の実態で離れている部分があって、そこも含めて今回はどういった表示が望ましいのかといったことを考えていきたいと考えております。

(阿部知事)

表示の話があって、現金価格と会員契約とカード会員など色々あって、そうした時にガソリンの販売価格を現金価格だけで比較してよいのかという議論もあるかと思いますが、これも乖離の実態といったデータはありますか。日常的に利用されている方はほとんど会員価格で、現金価格より安い価格で利用されていると思うので、現金価格だけ議論すると実態と違ってしまわないでしょうか。

もう一方で、長野県の場合は観光でお越しいただく方も多いので、そういった方々からすると、今の表示価格。日常的には、先ほどのアンケートを見ても、表示がなくても大丈夫だと思われそうですが、観光等で来る人たちの問題が極めて重要な話で、インターネット上では長野県はガソリンが高いという話が、あまりにも流布されすぎてし

まっている感じがあります。そういう意味では、実情を詳らかにした上で発信していくことも、片方では必要ではないか。価格差が高いというところだけが強調されているという状況でよいのかという観点でも、検討する必要があると思うので、今後さらに整理していくことが必要かなと思います。

(米沢産業労働部長)

いま知事からあった、いわゆる実売価格と呼ばれている会員価格やカード価格といったものを把握している調査はあるのでしょうか。

(西川くらし安全・消費生活課長)

昨年、石油商業組合の組合員と話した際に、現金価格は国の調査の結果は高いのだけれども、会員価格では安いのだといった話があったので、群馬県と長野県内を抽出をして、我々の方で汗かいて、車でガソリンスタンドに行って調査をしまして、そこでは、群馬県と長野県で価格差はなかったというような調査は行ったことはございます。詳細に金額でこれだけ差があるというところまでは、なかなかやっけて行われていないかなと。

ただ、可能性として、今回のアンケート調査で看板全て写真を撮っておりますので、そういった中で、現金価格が何日現在でいくら、同じ状況の中で、会員価格と称されているものがいくらかといったものは、一個一個見ていけば、時間がかかってしまうかもしれませんが、分からないわけではないという状況ではあります。

長野県内のガソリンスタンドと、埼玉県と愛知県の50店舗は、今回の調査で全て写真を撮っております。

(米沢産業労働部長)

例えば価値総研さんで、他県の実売価格の実情のような調査結果はあるもののでしょうか。

(価値総合研究所 鴨志田主席研究員)

あるかないかといと、ないです。先ほども触れました国で公表している価格調査で、他県と比べて高い低いというのを皆さん判断されると思いますが、このサンプルがどこかということがまず分からないので、先ほど申し上げたように、もしかしたらサンプルの取り方がちょっと山の方に偏っているだけで、長野県は実は高くないということあるかもしれません。

他に行くとすれば、民間でガソリンスタンドの価格が出てくるウェブサイトもあつたりしますので、信頼性の問題はもちろんあるかもしれませんが、そういったものを活用するということも考えられるかなとは思っています。

(米沢産業労働部長)

全国調査のスタンドの中身というのは、我々は知ることができないものなののでしょうか。

(価値総合研究所 鴨志田主席研究員)

公表していないと聞いております。

(米沢産業労働部長)

ありがとうございます。先ほど西川課長から申し上げました通り、ガイドライン作成に向けてさらに進めてまいりたいと考えております。また、ご意見等ございましたらいただきたいと思っております。

以上で、本日の議題はすべて終了いたします。

〔まとめ〕

（米沢産業労働部長）

まず議題（1）につきましては、冒頭ご説明させていただきましたとおり、皆様と連携しながら、本日いただいた、例えば広域の観点も含めて、スタンドが今後存続するための環境を、全体を見据えながらの計画を作っていけるような取組をしていきたいといったお声も踏まえながら、県として出来る支援をさせていただきたいと思っております。

議題（2）につきましては、冒頭で申し上げましたとおり、ここまでの我々の調査で、こういった内容が見えてきたということをご紹介させていただきました。ご指摘もありましたとおり、価格に対してどのような影響力を持っているのか、決定に対してどのような影響を及ぼしているのかということについて、まだ分析が足りない部分、あるいはもう少し他の調査を行いながら分析を進めなければいけない部分があると思っております。

本日いただいたご意見を含めまして、さらに調査を進めて分析をしていきたいと思っておりますので、本日ご議論いただきました内容以外にも、もしご意見等ございましたら、この後でも結構ですので、私どもにいただければと思っております。

最後の価格の表示方法につきましては、先ほど西川課長からも説明がありましたとおり、今後に向けて議論しなければいけない部分を深掘りさせていただきながら、全石連様で作られているガイドラインをさらに長野県版にできるかどうかという検討を進めていきたいと思っております。

長野県にとってガソリン価格の表示はこういうことがよいのではないかと、これから議論を進めていく中でお示しできれば示していきたいと考えておることですので、こちらにつきましても、またご意見等ございましたら、私どもの方にお寄せいただければと思っております。私のまとめは以上でございます。

（阿部知事）

本日も色々なご意見をご提示いただきまして、ありがとうございました。

1点目の中間地のSS支援は、いま予算編成作業中でありましても、今日の方向性を県予算で具体化するよう努めていきたいと思っております。国の予算も有効に活用させていただきながら、市町村と県とで連携して、しっかりと中山間地域のSSが地域として必要なものについては、存続できるように取り組んでいきたいと思っております。市場原理に委ねているだけだと、なかなか存続が難しい部分がありますので、社会的共通資本を支えるという観点からも、市町村の皆さんと力を合わせて取り組んで参りたいと思っております。

価値総研の鴨志田さんからご指摘もありました、SSの業務内容の多角化・複合化を考えていかなければいけないというご指摘も非常に重要な点だと思います。中山間地域の皆さんの暮らしを支える拠点として、どうやって発展させていくのか、産業労働部だけでなく企画振興部等も含め、我々もその点はしっかり念頭に置きながら取り組んでいきたいと思っております。

あとの2点のテーマについては、今日のところはまだ中間報告で、さらに詰めなければいけない観点、調整しなければいけない観点をお話いただきましたので、次回に向けて我々でも実態をさらに詳しく把握をした上で、方向付けをしていきたいと思っておりますので、引き続きご協力いただきますようお願い申し上げます。

ありがとうございました。